

# 足摺岬物語

君といくなら  
足摺山甲よ  
足摺踊

土佐湾を抱え込むように四国最南端に位置する足摺半島。背後の険しい山地には、ツバキウバカシ、シロユスなどの深い森があり、海岸部にはアワやビロウなどの亜熱帯の木々が太平洋からの潮風に揺れ、南国土佐の風情があふれている。

足摺半島には5,000年もの昔より縄文時代から人が暮らしていた。九州の黒曜石の先鋒が、多く出土した鹿の足跡の巨石群やストーンサークルには太古のエネルギーとロマンを感じる。パワースポット！

金剛福寺までの行程は岩がちな足光寺へも土佐路にあり最長。まさに足とびさす「あしつり」の難行行程。昔は山坂を越え谷を渡り危険な道や磯道、迷えば深山に入り込む悪路だった。

秋は赤いノジキとツツクキ。ノジキは物部川で獲ることができない不思議な性質がある。

足摺岬はカリオ漁の好漁場。大いに釣る。

ビロウ自生地。大地の果ての足摺。亜熱帯植物のビロウ。自生の東限がある。海からの強風により樹高は低い。

天狗の鼻。21世紀に残したい日本の風景。四国唯一。天狗の鼻から灯台望む。

展望台。三面を太平洋に開く絶景。地球の丸さが感じられる。水平線が広がる。

爪書石。弘法大師が爪で「南無阿彌陀仏」と刻んだと伝わる岩。

一夜建立。不成の華衣（未完の鳥居跡）（とてりい）

足摺山甲。かつては蹠跣の山甲と保安林で知られていた。白皇山のある佐田山は「蹠跣山」に配属して漢字名と改められた。

空海伝説 足摺七不思議。断崖の絶景 足摺岬。ヤブツバキの遊歩道に沿って2,000年前金剛福寺を開いた弘法大師。空海に由来する足摺七不思議。潮風に吹かれながら太古の歴史とロマンに触れて歩くのも楽しい。

## 天狗伝説

足摺の原生樹林の奥には天狗が住むといわれている。金剛福寺の領地が殺生禁断の布告により住民が足を踏み入れることができない山でもあった。最深峰 白皇山には修験の山伏が行来する様子。まさに天狗が住む山中として畏れられている。現代も白皇山ではしばしば道に迷う登山事故が発生する。これも天狗の仕業かも知れない。

金剛福寺の山門には「補陀落車門」の額。平安初期、蹠跣の皇の山門によるもの。仏教信仰ではインドの南海上に観音浄土（補陀落の浄土）があるとされ、そこから見ると足摺岬は東方に位置することから「東門」とされたという。

## 大師亀

伊勢宮

## 金剛福寺

渡海橋の碑

## 白皇神社

木の股地蔵

## 亀岩

クワシイ群落

## 伊佐経塚

足摺岬岬台用から鎌倉時代に仏教教養を身に納めた二木の経塚が発見され、国立博物館に所蔵されている。

## 伊佐経塚

古来より岬先端部は「鯨野原」の「伊佐」と呼ばれていた。「いさ」は「鯨」「いさな」。鯨の回遊する地域として知られていた。鯨で栄え足摺岬と山甲の縁起となる。清和村 伊佐→清水町伊佐→土佐清水市伊佐と継がれたが、昭和44年に行政区画により足摺岬に改められた。

## 伊佐経塚

人の力ではいかんともしがたい海の王者。鯨が誰にはばかることなくゆうゆうと群遊していた足摺の海。幕府時代には空津が藩政の鯨場所とされた。

## 足摺山

（蹠跣山）168M

国有林、金剛福寺敷地、市有林からなる。その昔、仏教僧侶の修験道場、霊山として信仰の場所でもあった。休養林、自然休養林にも指定され国民のくらしを守りやあらぎを与えている。蹠跣山の由来は、空海が足摺岬の樹林に住む悪魔を調伏し、怪参に悪魔が「足あり、蹠跣にじり」という意味が地名の源となり、江戸の頃より足摺と呼ばれるようになった。

## 亜熱帯植物園

足摺は珍しい植物の宝庫。ロベリアムード漂う岬の一面に日本最北端の亜熱帯植物園がある。まるでジャングルのような様相で亜熱帯の花やビロウ、シダ、ヤシなどの植物が生き生きと咲いている。昭和48年（1974）開園。足摺の景観を活かし、遊歩道や休憩舎、バスターミナルなどが設けられている。昭和55年には天皇陛下の行幸と見合ったところでもある。（国有林）

## 火立場（狼煙場）

鎖国時代、異国船が来ると発見した浦口から狼煙があげられ次々と高知城下まで伝えられていった。足摺周辺では伊佐の愛宕山、伊佐、松尾、空津、山甲利に火立場（狼煙場）があり、乾燥した狼煙の煙は火が付いたに似て消えることなく、発火性が高かった。狼煙の入手が困難ならば、野犬の糞を代用していた。

## 足摺岬と海

国立公園

## 万次郎足湯

波乱万次郎

## アロウ溪

## 白山洞門

高16m、幅17m、海蝕で日本一の大穴。ハートに見える。

## 白山権現

刻一刻と形を変える波が断崖にぶつかる。ダイナミックな風景。

## 補陀落渡海

足摺岬から南海上にあるという補陀落の浄土を目指し、決死の勇気を出して渡った僧侶の石碑が、池のほとりにひっそりと立っている。

## 参考文献

土佐清水市史（下）

## 2015.6.4

## 2015.6.4